

平成 21 年 2 月 17 日

国 土 交 通 省

輸送中の放射性同位元素の所在不明事案に係る国際原子力事象評価尺度 (INES) 正式評価の結果について

(社)日本アイソトープ協会が、京都医療科学大学(京都府南丹市)に向けて、平成 20 年 9 月 24 日に発送した放射性同位元素リン 32(溶液量 1 ミリリットル)が、到着予定の同月 25 日になっても到着せず、現在もなお発見されていないとの事案(平成 20 年 9 月 27 日広報済み)が発生しております。

これについては、当省は文部科学省とともに国際原子力事象評価尺度(INES)に基づく暫定評価を行い総合評価レベル 0(安全上重要ではない事象。)との結論を得ているところですが(平成 20 年 10 月 21 日広報済み)、今般、専門家からなる「放射性物質陸上輸送技術検討会」を開催し、国際原子力事象評価尺度(INES)に基づく正式評価を行いましたので、その結果を下記のとおり、お知らせいたします。

記

【国際原子力事象評価尺度(INES)に基づく正式評価】

被ばくに基づく評価	環境への影響に基づく評価	深層防護の劣化に基づく評価	総合評価
レベル 0	レベル 0	レベル 0	レベル 0

(注)

「被ばくに基づく評価」: 人体への被ばくの影響度に基づく評価。

「環境への影響に基づく評価」: 放射性物質の環境への放出量等に基づく評価。

「深層防護の劣化に基づく評価」: 安全対策の状況に基づく評価。

「レベル0」: 安全上重要ではない事象。

<お問い合わせ先>

国土交通省 自動車交通局 技術安全部 環境課 野津、岩佐、佐々木

TEL: 03-5253-8111(内線 42-502、42-513) 直通: 03-5253-8603

国際原子力事象評価尺度(INES:International Nuclear Event Scale)について

1. INESとは

- (1)国際原子力事象評価尺度(INES)は、国際原子力機関(IAEA)及び経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)が、原子力発電所等の個々のトラブルが安全上どのような意味を持つものかを簡明に表現できるような指標として1992年に策定したものである。
- (2)2006年に放射性輸送物の輸送中の事故等にかかる基準を含む追加ガイダンスが発行された。

2. 放射性同位元素等の陸上輸送事象に係る我が国の対応

当省においては、2006年の追加ガイダンスを受け、内規を定め、次のような取扱いを行っている。

(1)INES 暫定評価

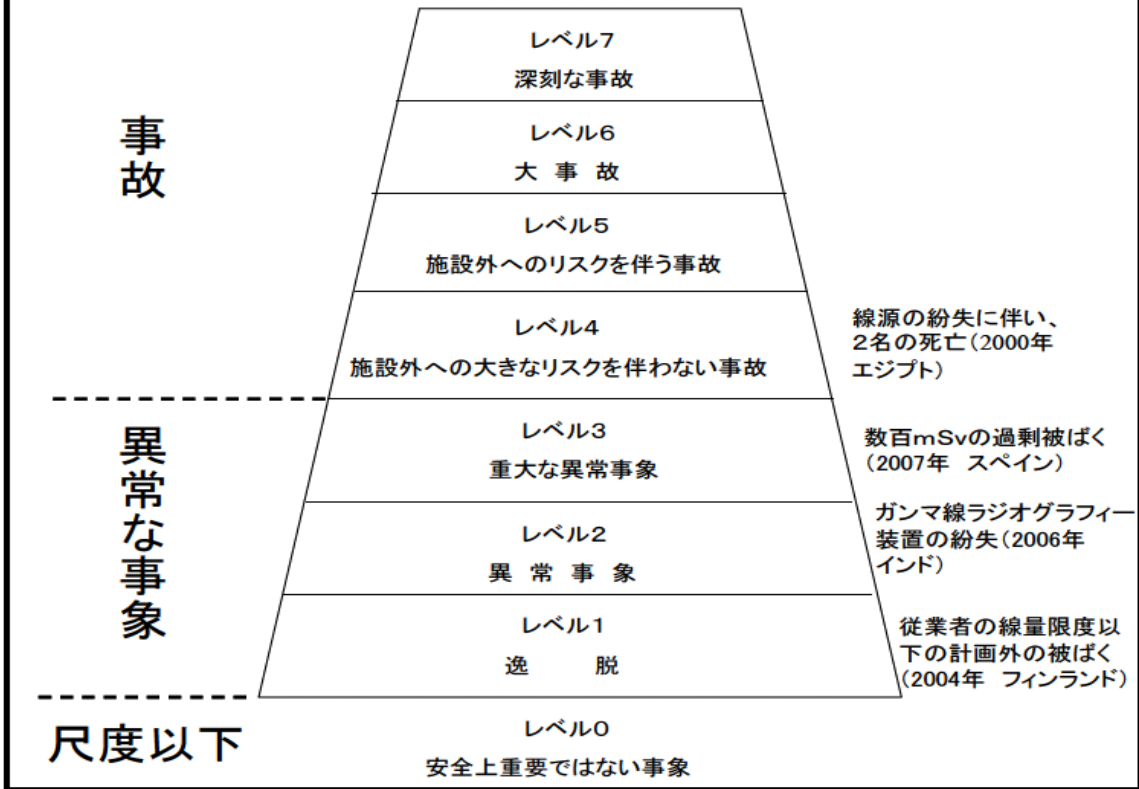
事業者からの事故発生後の通報に基づいて、文部科学省と連携して INES 暫定評価を行い、結果を公表する。

(2)INES 正式評価

事業者からの詳細な報告書に基づく情報を収集した後、自動車交通局に設置された「放射性物質陸上輸送技術検討会」を開催し、その検討結果を踏まえ、文部科学省と連携して INES 正式評価を行い、公表する。

【国際原子力事象評価尺度(INES)】

参考事例



放射性物質陸上輸送技術検討会委員名簿(敬称略)

石田 正美	財団法人 原子力安全技術センター 企画部長
伊藤 千浩	財団法人 電力中央研究所 地球工学研究所 上席研究員
木村 俊夫	社団法人 日本アイソトープ協会 アイソトープ部 業務二課長
中込 良廣(委員長)	国立大学法人 京都大学 名誉教授
橋本 周	独立行政法人 日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター 安全管理部
米澤 英樹	独立行政法人 交通安全環境研究所 自動車安全研究領域